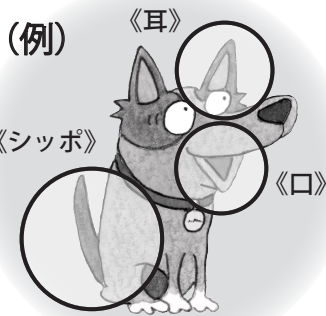


ペットにも心(気持ち)がある

この授業では、さまざまな犬のイラストを見て、その犬がどんな気持ちなのかを考えます。人間の言葉を話すことができない犬のしぐさや表情を見て、相手の気持ちを想像する大切さを伝えることを目的としています。

観察のポイントは、「シッポ」「耳」「口」の3箇所です。①～④のポーズが、それぞれのパーツのA～Dのどの表情かを選び、その犬が、今どんな気持ちなのかを書き込みます。

下の①～④の犬は、このような気持ちを表しています。



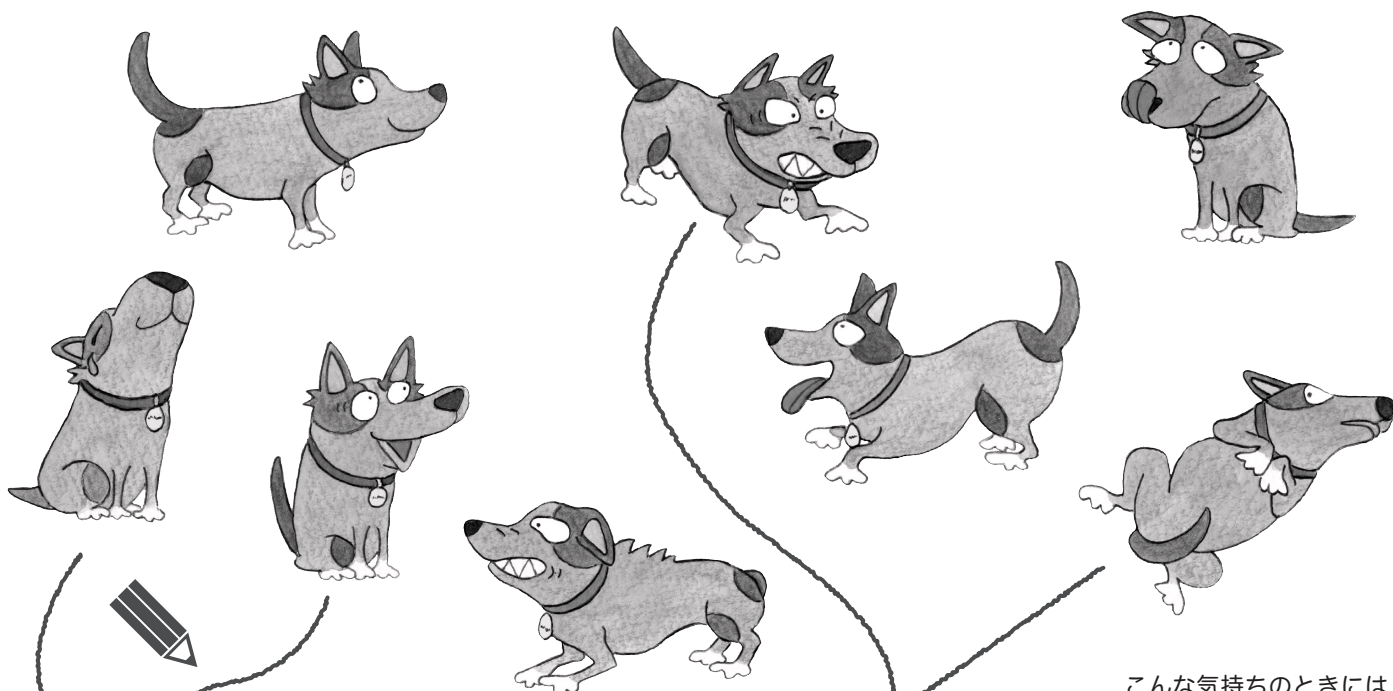
- ① 嬉しい／楽しい／一緒に遊んで欲しい／何かを期待している
- ② 怒っている／警戒している／威嚇している
- ③ 嬉しい／楽しい／一緒に遊んで欲しい／何かを期待している
- ④ 緊張している／不安／困っている／あやまっている



①②③は比較的小児たちもイメージしやすいと思いますが、④は少し難しいかもしれませんが、しかし、自分とは違う存在が、必ずしもいつも自分が理解できる行動をするとは限りません。人間の言葉をしゃべれない相手の気持ちを想像することは、人間同士の関係においても、他者の気持ちを思いやることにつながります。

どんな気持ちを表しているかな？

ここにあるさまざまな表情の犬のイラストが、今、どんな気持ちを表しているのかを考えて線でつなぎます。そして、そういう気持ちの犬に対して、自分ならどんなことをしてあげられるのかを子供たちに考えてもらいます。



それぞれのイラストが、どんな気持ちを表しているのか線でつなぎます。

こんな気持ちのときにはあなたならどうしてあげますか？

うれしい気持ちがずっと続くように、散歩に行っておあげる。

毎日一緒に遊んであげる。声をかけてあげる。

犬が嫌がるようなことをしない。そっとしておいてあげる。

ワークシート1の吹き出しの中に①～④の犬の気持ちを想像して書き込みます。たくさんある場合は、余白の記述欄も使用します。

気付く

ワークシート2は、それぞれの犬がどういった気持ちを表しているかを線で結びます。そして、犬がその気持ちのときに、自分だったらどうしてあげられるかを書き込みます。

共感する

グループで話し合っ、犬がうれしい気持ちになるにはどうしてあげたらいいのか、また悲しい気持ちや怖い思いをさせないためにはどうしてあげたらいいのかを話し合っ、発表します。

行動する

FreePets の教材では、決まった正解を導くことを目的としていません。子供たちが自発的に相手の気持ちを想像し、「なぜそう思ったのか」「自分ならばどう行動するのか」という理由があれば、その意見を尊重してあげてほしいと思っています。